

**場所** 栃木県小山市

**面積** 2.7ha

**活動目的** 干害防備保安林及び保健保安林として機能するよう、維持管理に努めている。



**サイト概要** 市内唯一の保安林である。  
クヌギ・コナラをはじめとして、多様な落葉広葉樹と、少しシラカシの混じる平地林である。  
面積は2,7haと広域で、植物から昆虫類、希少な鳥類まで多様な生物を確認できる。  
また、西側には一級河川が流れ、環境的な多様性も見られる。

**土地利用の  
変遷**

もともとは農用林として利用されてきたものと考えられる。  
市で用地を購入したのち、整備を行い平成17年度に保安林として登録をしている。

**サイト周辺の  
環境**

宅地、畑地、太陽光発電所等人工的な環境が多い。  
西側には小山市の中心部を南北に貫く一級河川思川（利根川、渡良瀬川の支流）が流れる。

**アピール  
ポイント**

- ・春先には林床にスプリングエフェメラルの植物が多数みられる。また、クワガタやカブトムシをはじめとして、多数の昆虫類を観察することができる。
- ・生物多様性おやま戦略のリーディングプロジェクトでもある市民・企業・市民団体の関心惹起、行動変容に向けた育成プロジェクトのフィールドワーク第一弾の場として、小山市の平地林保全の拠点となっている。

## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

本サイトは、思川左岸の河岸段丘の平地林及び斜面林でクヌギ、コナラ等の落葉樹林とスギ・ヒノキ植林となっている。

## 【主な植生】

大部分がクリ、クヌギ、コナラ等の落葉樹からなる樹林で一部がスギ・ヒノキ植林となっている。

## 【確認された主な動植物など】

区域及び周辺では、2021～2022年の現地調査において、植物225種、哺乳類3種、鳥類27種、両生類・爬虫類3種、昆虫類140種が確認されている。

植物：コブシ、ヤマザクラ、ムクノキ、エノキ、クヌギ、コナラ、オニグルミ、イヌシデ、スギ、ヒノキ、ヤマコウバシ、アブラチャン、ヤマウグイスカグラ、ゼンマイ、ホウチャクソウ、ヤマジノホトトギス、キンラン、フジカンゾウ、タチツボスミレ等

哺乳類：アズマモグラ、キツネ、イノシシ

鳥類：キジ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、カケス、シジュウカラ、シメ、アオジ等

両生類・爬虫類：ニホンアマガエル、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ

昆虫類：ハグロトンボ、コバネヒシバツタ、ナナフシモドキ、ニイニイゼミ、オオヨコバイ、ホソヘリカメムシ、ギンイチモンジセセリ、キタテハ、アゲハ、クロヤマアリ、ニホンミツバチ等



写真の説明：雑木林の林床



写真の説明：ニホンカナヘビ

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

本サイトは、思川左岸の河岸段丘の平地林及び斜面林でクヌギ、コナラ等の落葉樹林とスギ・ヒノキ植林となっている。林内には遊歩道が整備され、環境教育や近隣住民の憩いの場として、活用されている。

## 【主な植生】

大部分がクリ、クヌギ、コナラ等の落葉樹からなる樹林で一部がスギ・ヒノキ植林となっている。

## 【確認された主な動植物など】

区域及び周辺では、2021～2022年の現地調査において、植物225種、哺乳類3種、鳥類27種、両生類・爬虫類3種、昆虫類140種が確認されている。

植物：コブシ、ヤマザクラ、ムクノキ、エノキ、クヌギ、コナラ、オニグルミ、イヌシデ、スギ、ヒノキ、ヤマコウバシ、アブラチャン、ヤマウグイスカグラ、ゼンマイ、ホウチャクソウ、ヤマジノホトトギス、キンラン、フジカンゾウ、タチツボスミレ等

哺乳類：アズマモグラ、キツネ、イノシシ

鳥類：キジ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、カケス、シジュウカラ、シメ、アオジ等

両生類・爬虫類：ニホンアマガエル、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ

昆虫類：ハグロトンボ、コバネヒシバツタ、ナナフシモドキ、ニイニイゼミ、オオヨコバイ、ホソヘリカメムシ、ギンイチモンジセセリ、キタテハ、アゲハ、クロヤマアリ、ニホンミツバチ等



写真の説明：遊歩道の状況



写真の説明：環境教育の場としての利用

## サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>&lt;活動目的&gt; 本サイトの自然を観察会等を通じて次世代に伝えるとともに、管理活動を通して生物多様性の大切さを普及する。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 以下の保全・利用活動を行う。 キンラン等の希少な植物が生育している場所については、踏み荒らしに留意しながら観察を行う。 クヌギ・コナラの薪炭林のかつての利用方法等を学ぶなどの管理方法を学び管理活動の体験を行う。</p> <p>&lt;実施体制、計画の点検・見直し&gt; 市が中心となってこれら保全・利用活動その他維持管理作業を行う。観察会や管理活動については専門家の助言を得る。</p>	<p><b>【モニタリング対象】</b> 植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類</p> <p><b>【モニタリング場所】</b> 東島田ふるさとの森</p> <p><b>【モニタリング手法】</b> 任意調査 植物：任意踏査 哺乳類：目撃法、フィールドサイン法 鳥類：ラインセンサス法、定点センサス法、任意観察法 両生類・爬虫類：直接観察法、捕獲調査法 昆虫類：直接観察法、任意調査</p> <p><b>【モニタリングの実施時期及び頻度】</b> 5年おきに実施</p> <p><b>【モニタリング実施体制】</b> 「生物多様性おやま戦略（令和5年度中に改定予定）」の改定作業にあたって、令和3～4年度に当該地の調査を行っている。計画期間は、10年間となっており、令和10年の中間年にモニタリング調査を実施、令和15年の改定年度前にも同様の調査を実施予定。</p>